

小ネギにおける土壌物理性簡易診断項目と基準値

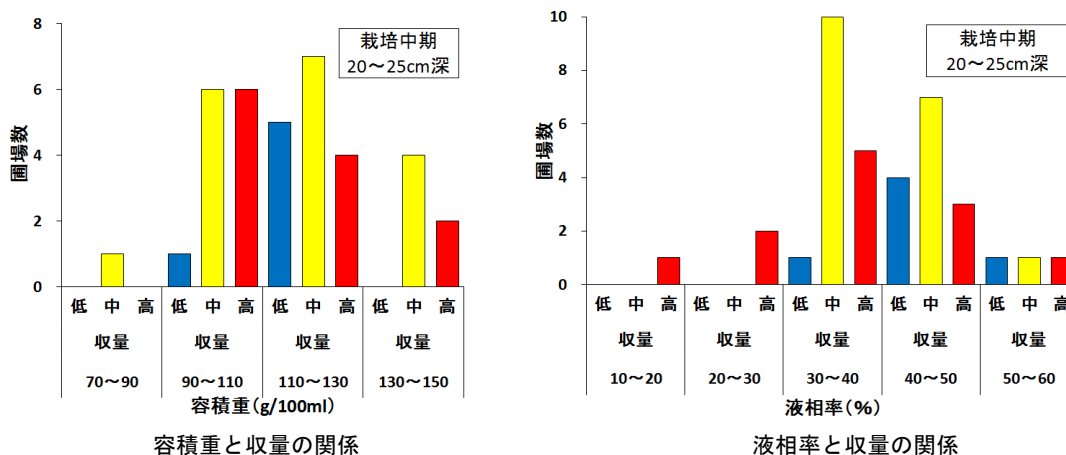
農業研究部

1. 研究の背景

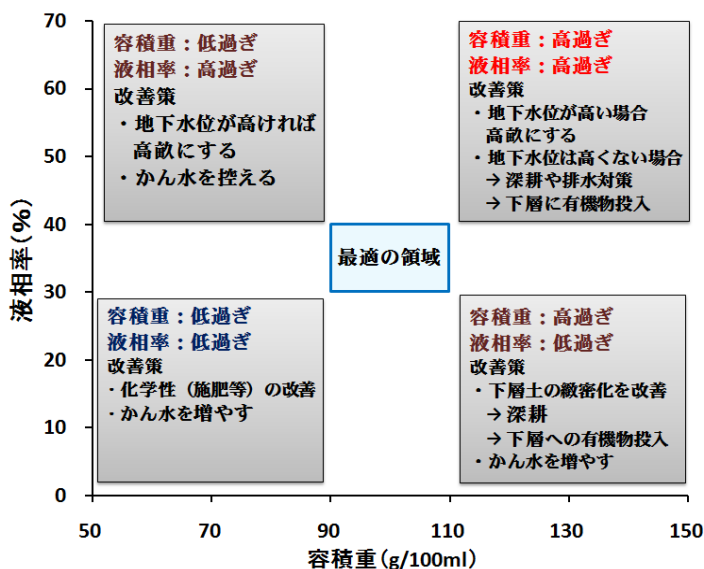
従来の土壌診断は化学性を中心に行われており、土壌物理性については十分に考慮されていない。一方、作物の生産性を左右する根群域の大小に最も影響するのは土壌物理性であり、栽培の基礎となる土壌物理性についての対策を講じる必要がある。そこで、土壌の物理性を簡易に測定できる診断指標を確立し、従来の土壌化学性診断と組み合わせた診断を可能にする。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

県内の小ネギの圃場について、栽培中期(3葉期)の作土直下(20~25cm深)の物理性を測定し、収量別に分類すると・・・



土壌物理性を基準に、低収量の圃場が多い領域を避け高収量の圃場が多い領域を選択すると、容積重では90~110g/100ml、液相率では30~40%の領域が最適と言える。



状況に応じた改善策

作土直下の容積重と液相率の数値について、それぞれが最適な範囲から外れている場合の分類と、土壌物理性を改善するための改善策の概要は、左記の図のようになる。

3. 期待される効果

- ・土壌物理性の診断により、物理性に問題のあるほ場のピックアップ
- ・土壌物理性改善による生産性の向上

4. 担当機関連絡先

農業研究部 土壌・環境チーム
TEL: 0974-28-2072
住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8